

道明 葵一郎 [有職組紐道明賞]

貴志 真生也

後藤 有美

遠山 正道 [遠山正道賞]

石場 文子

あいちトリエンナーレで出会して、やられたというか膝を打つというか一人ニヤリとして暫し立ち止まった。ここ 3331 でまた出会して、自分の日記の時間軸が立体化したような気がした。

輪郭は日本画の御家芸で、だから平面的にあたまのなかで転換するのか。しかし、アーティストって楽しい。

江上 越

VOCA で一番印象に残った作品が、ここにあった。大胆な筆致で、ブロック化された大きなピクセルのようであり深夜のブラウン管のようでもある。

私は時として描き込まれすぎた感情過多なペインティングよりも客観的に切り出した写真作品に惹かれることが多く、江上のそれも、描き込み様のないスピードある筆致が、だからこそその向こうに隠れて現れてくる対象と出会えた気がした時の、共通言語のようなものが、うれしい。

小川 武

枝なのに、艶かしく、クール。

後輩がバーをひらき作品を貸してくれと言われたら差し出したい一枚。港区でも江東区でもいける。

副島 しのぶ

「人形が悲しみを演じるとき」

人形が悲しみを演じていながら、本当に泣いてしまったように見える。短く、直球ながら、観ている人の感情のスイッチをそのまま up してしまう作品。

飛田 正浩

コミュニケーションできて、作家が鑑賞者を觀察して、作品を着用できる。
アートが実用品であったって、いいじゃないか。

永井 天陽

こういう反射神経的な作品好きです。

値段も反射神経で買えて良い。そうやってコミュニケーションが形成される。Skin#1 #2 もほしいな。

吉村 宗浩

こういう物語に沈殿していくピュアな作品はうれしい。

3つ頂いたが、ブランデーにソーダとレモンでも絞って飲みながら 3 つを紐付けるストーリーを綴りたい。

吉村氏から現場で話を聞きできたのも有難く、この主役の女子は、スポーツウーマンで垢抜けず、慣れないデートに、大きく不格好なリボンをつけてしまっている、と聞いた。物語がスタートした。

そして、私自身、人物不在の“足場”という作品に最も心惹かれていることが気になっている。

和島 ひかり

ぼくも、こうやって、自分を觀察して、言葉にできないものも、こうやって何とかしてみたいなと思いました。

眠っていて、何だか思いついてメモしてみたみたいに、採れたての觀察、そういう周辺に、きっと表現っていうのがあるような気がします。

中尾 豪 [美術 Academy&School 賞]

やなぎさわ ひろ

中村 政人 [中村政人賞]

石黒 健一

小田 香

西山 沙樹 [西山沙樹賞]

木原 千春

一昨年の冬、どら焼き有名な「うさぎや」のカフェに行くことがありました。そのとき私の心を捉えたのは、どら焼き以上に店内に飾られている和装の女性のペイントでした。とにかくクールで、上品で、力強い。オーナーに作家の名前を伺いましたが、そのときは結局わかりませんでした。

そして今回のアートフェアで、同じように和装の女性がモチーフになっている作品が展出されると思った瞬間、2年前カフェで見たあの作品を思い出し、とてもトキメきました。あれは、木原千春さんの作品だったのか！。この出会いがとても嬉しかったです。

早く作品を拝みたいです。（本当は赤と青の作品も迎えたい気持ちでいっぱいです。）

吉村 宗浩

ショールでヘンテコでおもしろいというのが第一印象でした。淡々と、飘々としている絵。なんというか、味があります。観れば観るほど美味しい。

気づけば描かれた人物を觀察して「この男は何を見て、何を思っているのだろう」と想像してしまいます。そうしているうちに自分も絵画の中に入り込んでしまっているのです。滝壺を眺めているだろう彼らの表情はなんともミステリアス。（何も考えてないんじゃないかな？という表情をしています。）

そもそも、そこらへんにいるような冴えない5人の男が滝壺を覗き込んでいるという状況もショールで謎めいていてクスッとしてしまう。

どれだけ眺めても飽きない作品です。他の作品もすべてとても魅力的でした。

西山 学 [西山学賞]

富安 由真

心靈や神秘学などで話題となる作家さんですが、理論が優先される欧米発祥の現代アートに対比した、仏教的、レンマ的に觀るべき作品を描かれていると感じました。

パトロンプロジェクト 菊池 麻衣子

[パトロンプロジェクト 菊池麻衣子賞]

前田 工マ

パトロンプロジェクト菊池麻衣子賞としては、モデルで作家の前田エマさんの作品を購入しました。同じ 3331 アートフェアに出品されていた小林正人さんの作品とシンクロするように木枠から大胆にはみ出るキャンバス地。そこに弾むピンクや黄色に未来へと続くアートスピリットを感じました。(^^♪ その日私が来ていたワンピースもピンク色のアニマルドット柄で、前田エマさんの作品と共に鳴していましたことに気が付きました！！エマさんにお会いして直接作品について伺える日を楽しみにしています。

林 曉甫 [林曉甫賞]

後藤 有美

例えば震災や戦災の地域に残された一枚の写真を彼女に手渡したとき彼女はどのような作品をつくるのかなどを考えながら作品を拝見しました。

平面に写された世界の要素を分解し、それを加工し立体化できる彼女の視点と技術はきっとそのつくるプロセスも含めて多くの人の関心を惹きつけるものだと思います。長期レジデンスなどでその場所や時間だから作れる表現を見てみたいですね。